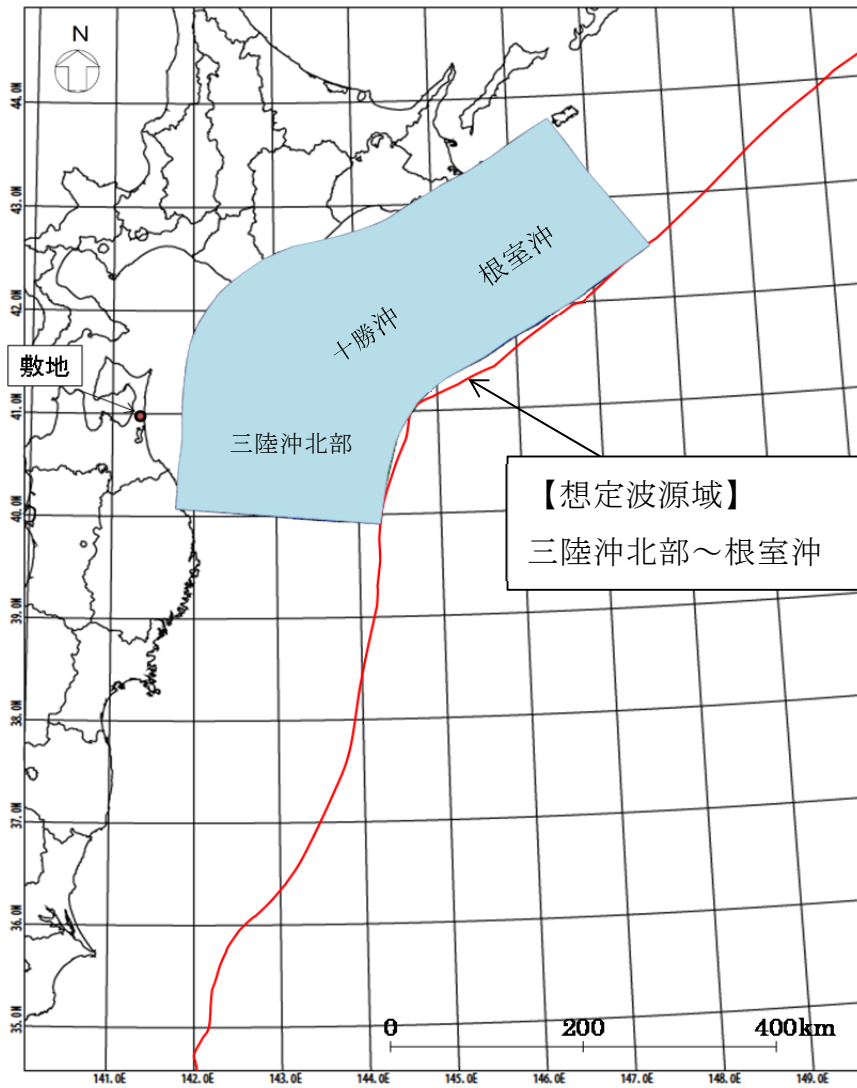



\*1: 相田(1977)<sup>(17)</sup>の図に加筆。

添3へ-第2図 既往津波の波高分布比較



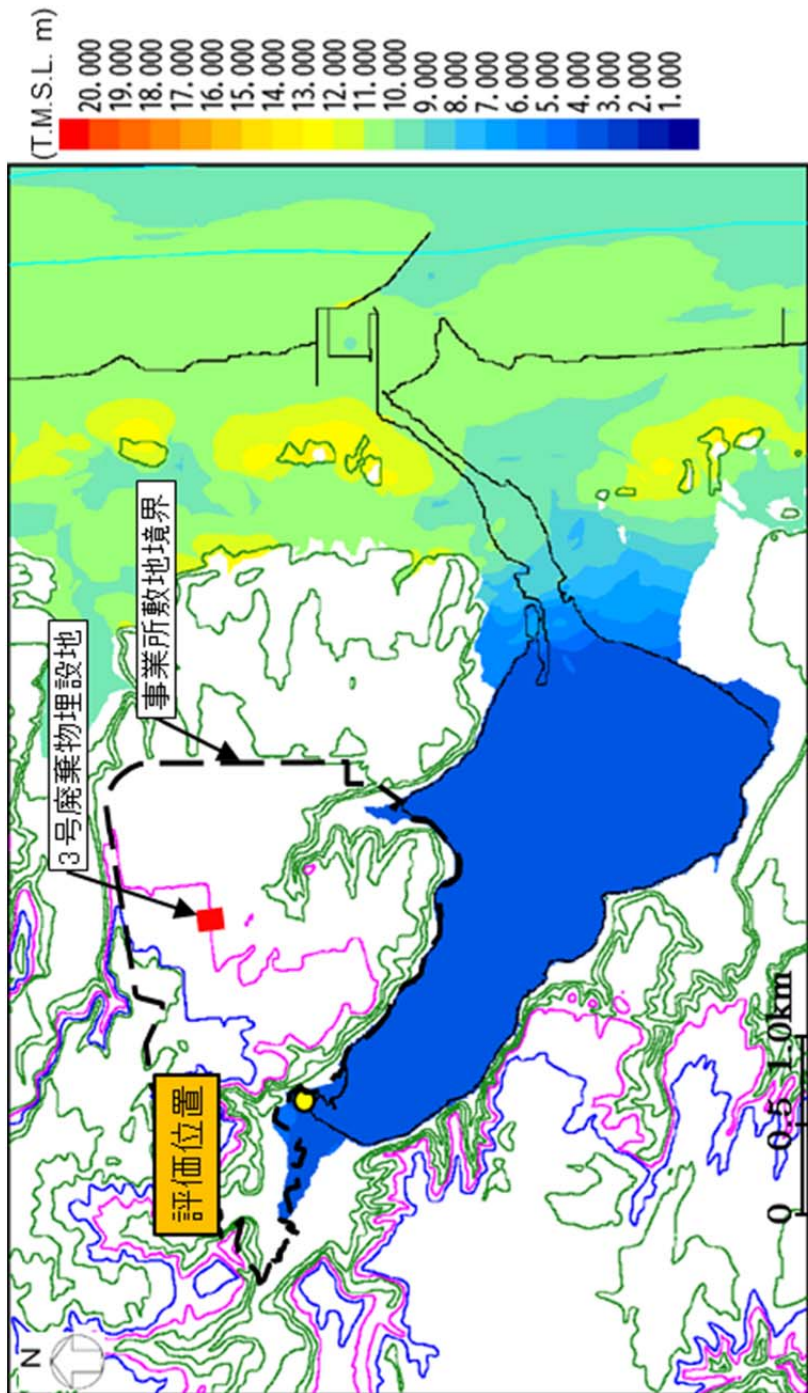
\*1：赤線で示す海溝軸は地震調査研究推進本部地震調査委員会(2004、2012)<sup>(16)(20)</sup>をトレース。

添3へ-第3図 北方への連動型地震の想定波源域

対象津波		H24 青森県太平洋側想定地震津波
マグニチュード		Mw = 9.0
使用モデル		H24 青森県太平洋側独自断層モデル
概要	説明	中央防災会議「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会」で平成17年6月22日に検討された「三陸沖北部の地震」と「明治三陸タイプ地震」を網羅する津波断層領域を想定した地震。
	震源域	

\*1：青森県海岸津波対策検討会(2012)<sup>(21)</sup>より抜粋・一部加筆。

添3へ-第4図 南方への連動型地震の想定波源域

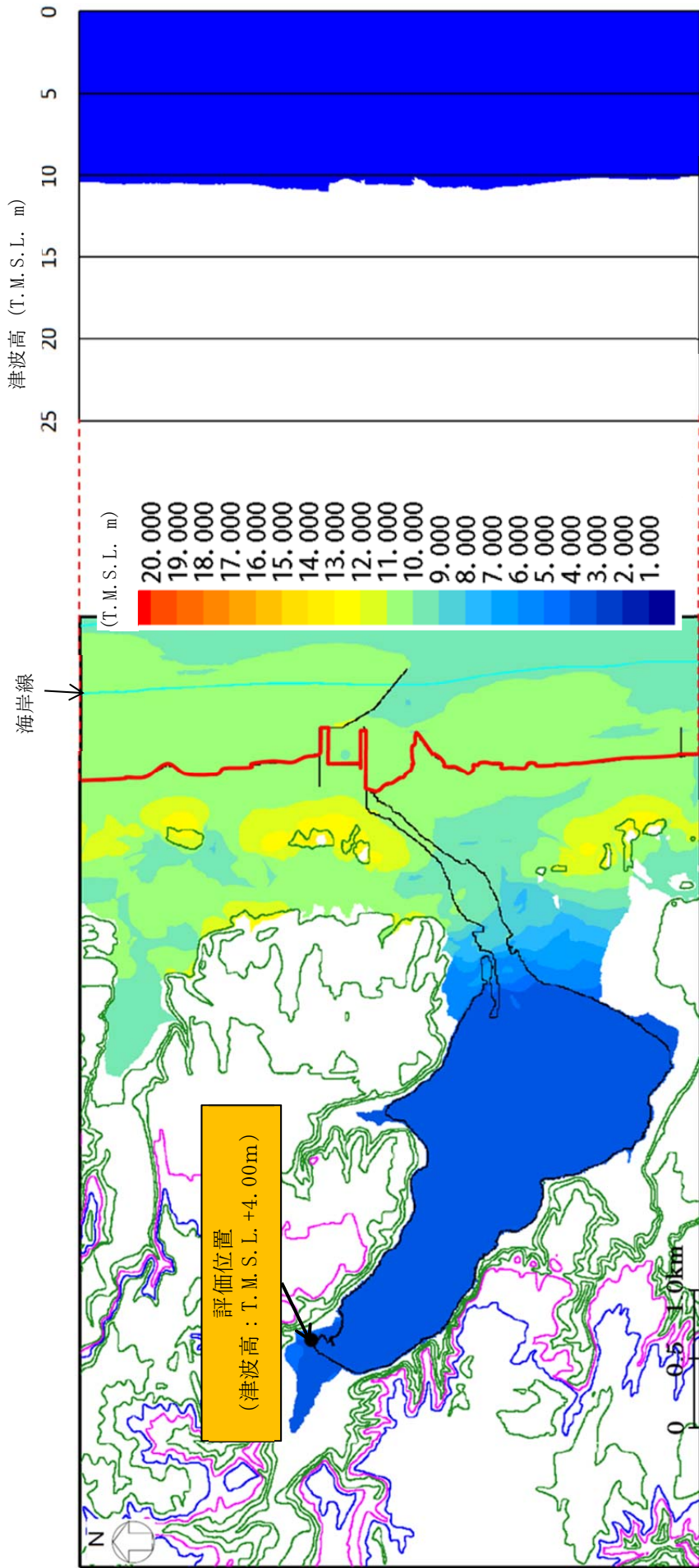


\*1：等高線は10m間隔。

添3へ-第5図 北方への連動型地震の津波波源モデル解析結果(津波高分布図)



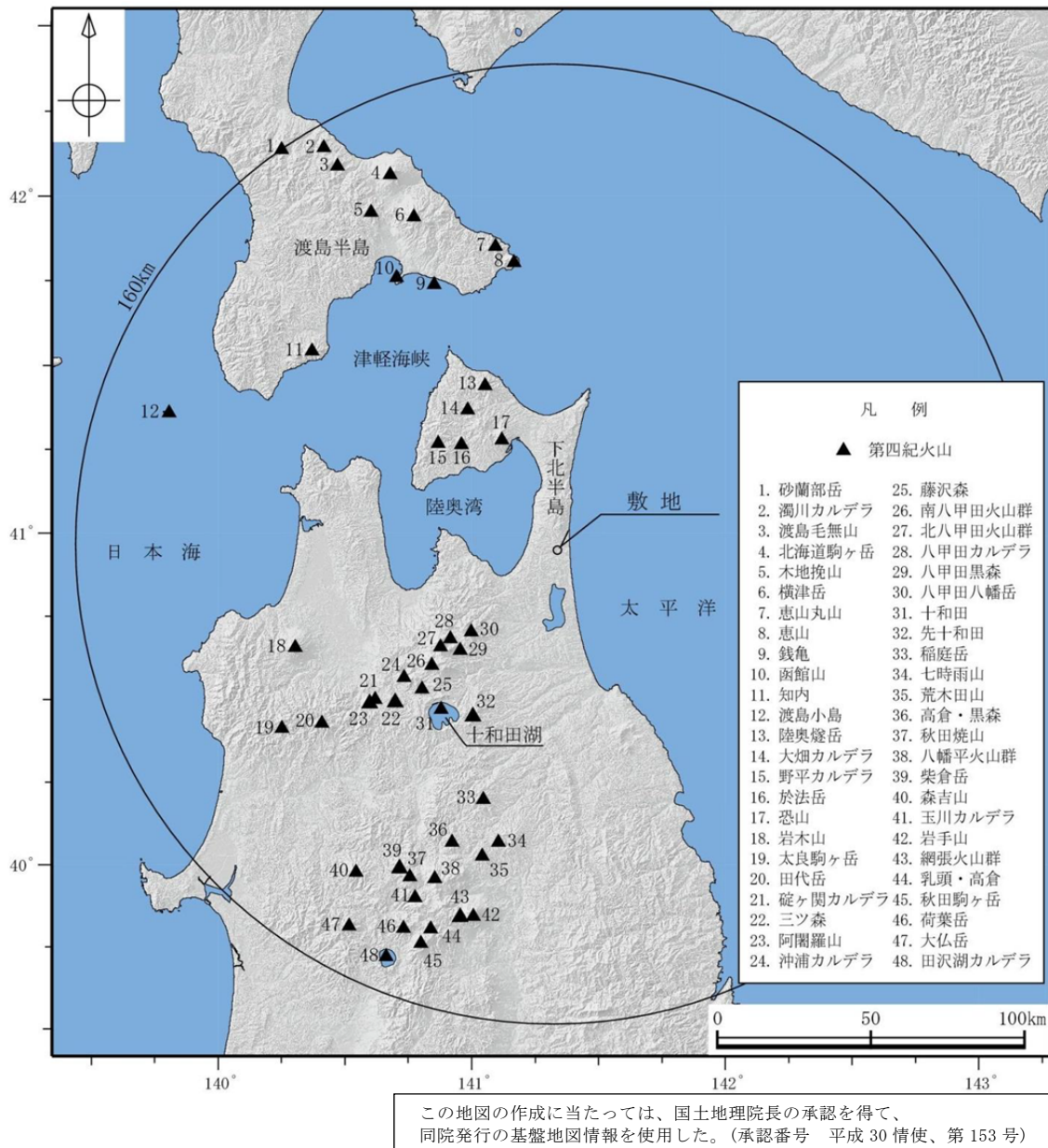




評価位置における時刻歴波形

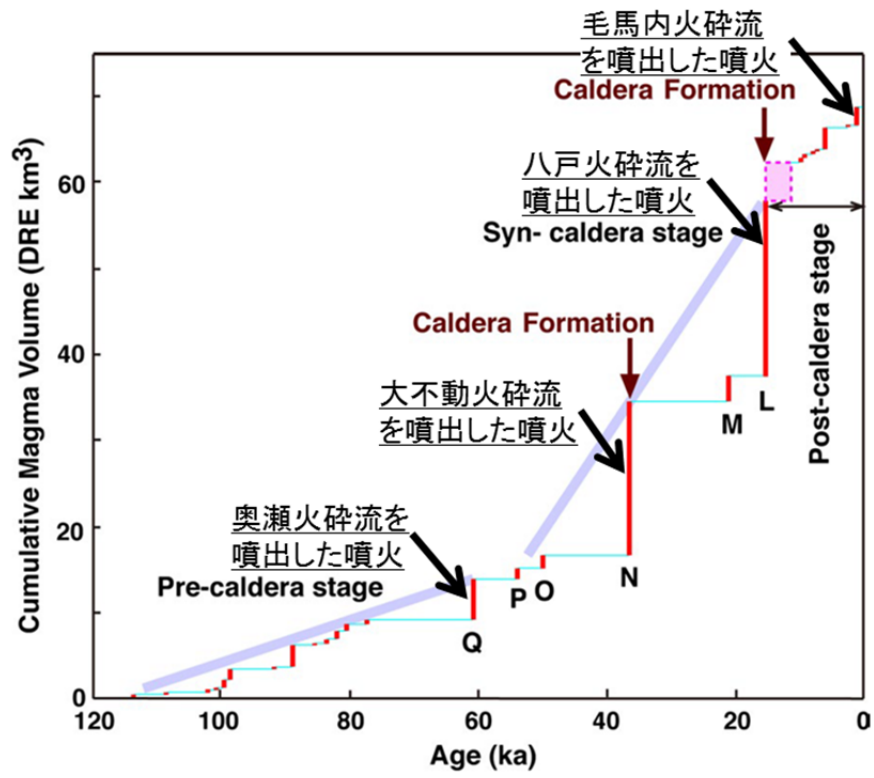
添 3 へ-第 8 図 北方への連動型地震に起因する津波の最大ケースの津波高分布



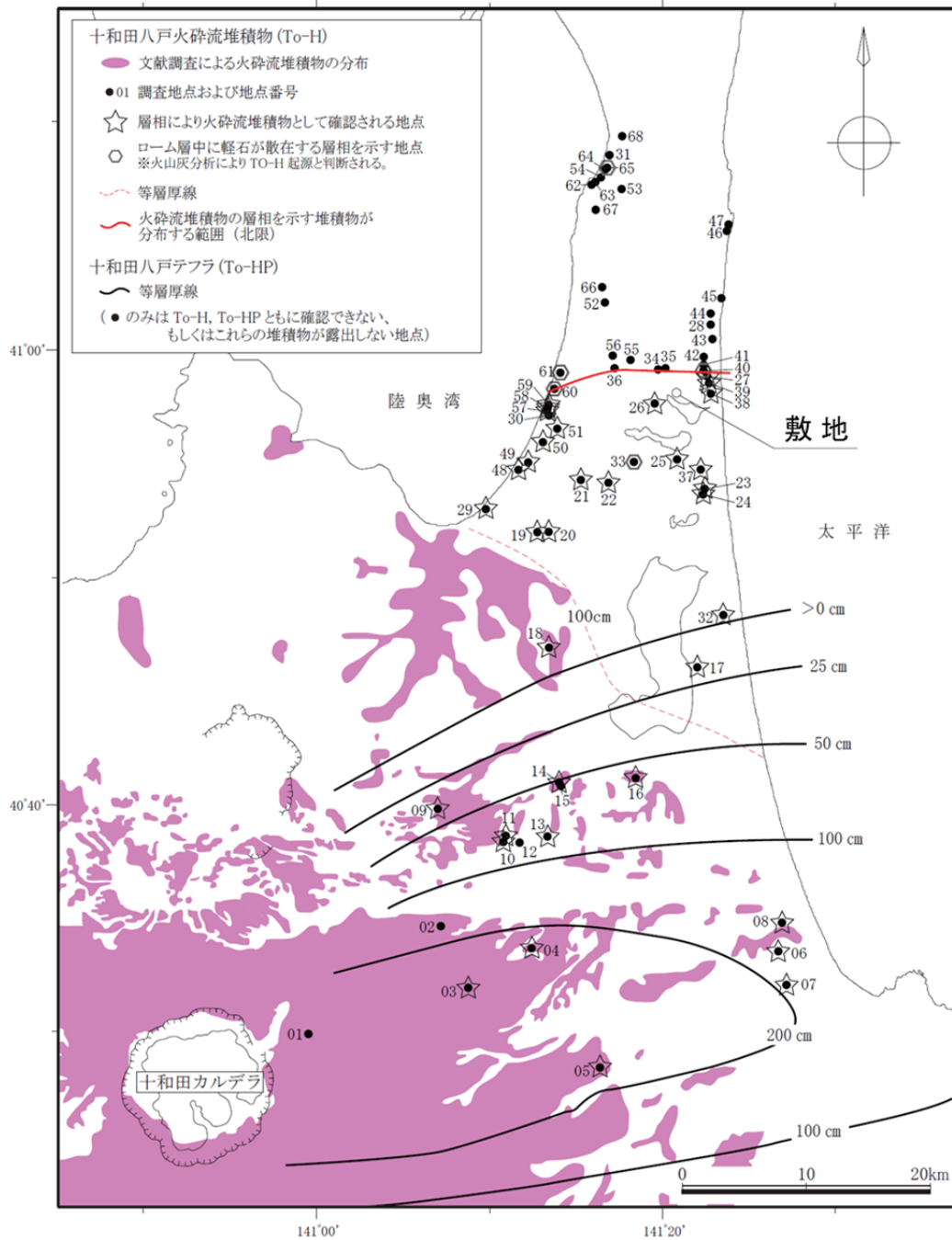


中野ほか編(2013)<sup>(1)</sup>に基づき作成。

添 3 ト-第 1 図 事業所敷地周辺の第四紀火山分布図(敷地を中心とする半径 160km 範囲)

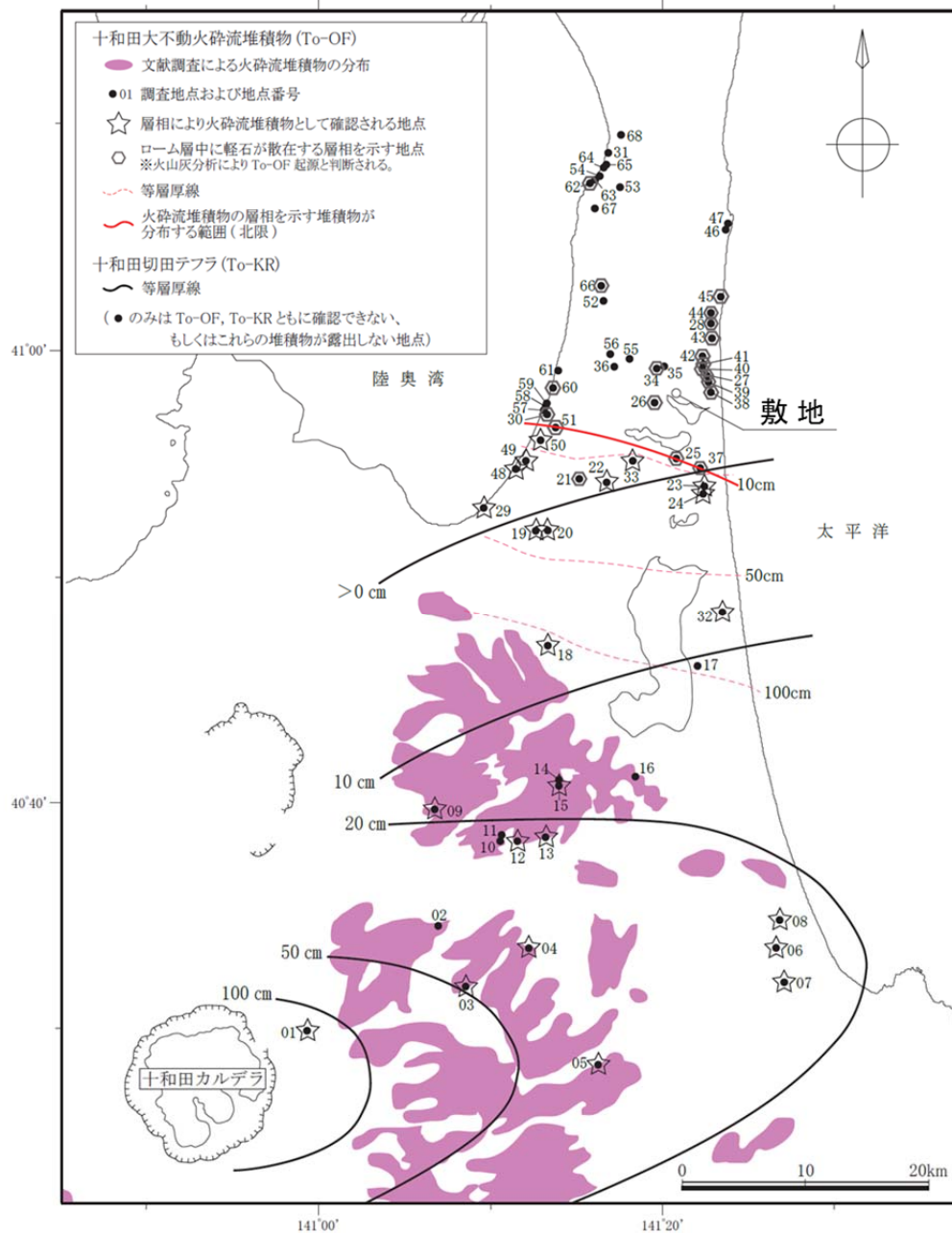


添3 ト-第2図 十和田の階段ダイアグラム (Yamamoto et al. (2018)<sup>(12)</sup> に一部加筆)



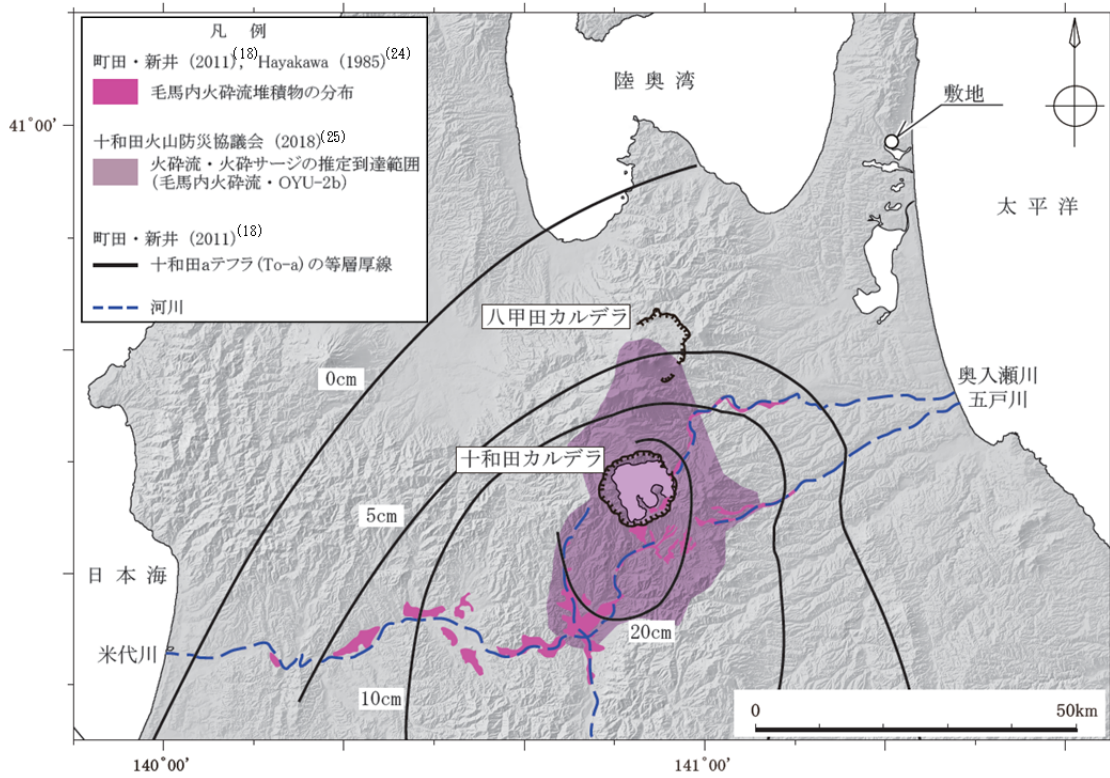
火砕流堆積物の分布は、村岡ほか(1991)<sup>(14)</sup>、大沢ほか(1993)<sup>(15)</sup>、大沢、須田(1978)<sup>(16)</sup>、土井(1993)<sup>(17)</sup>、町田、新井(2011)<sup>(18)</sup>に基づき当社が作成。

添 3 ト-第 3 図 十和田八戸火砕流の分布

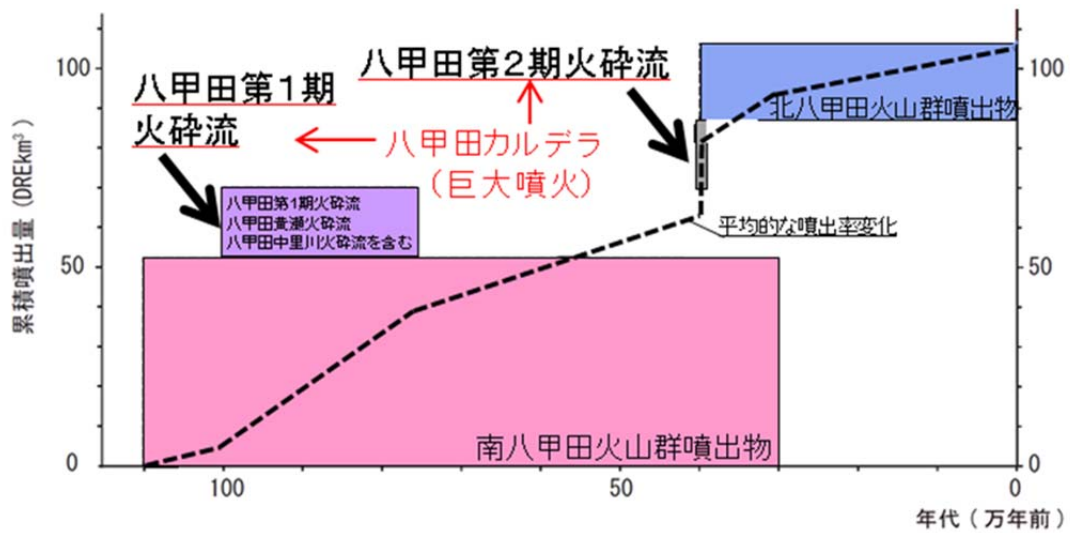


土井(1993)<sup>(17)</sup>、町田、新井(2011)<sup>(18)</sup>に基づき当社が作成。

添3ト-第4図 十和田大不動火砕流の分布

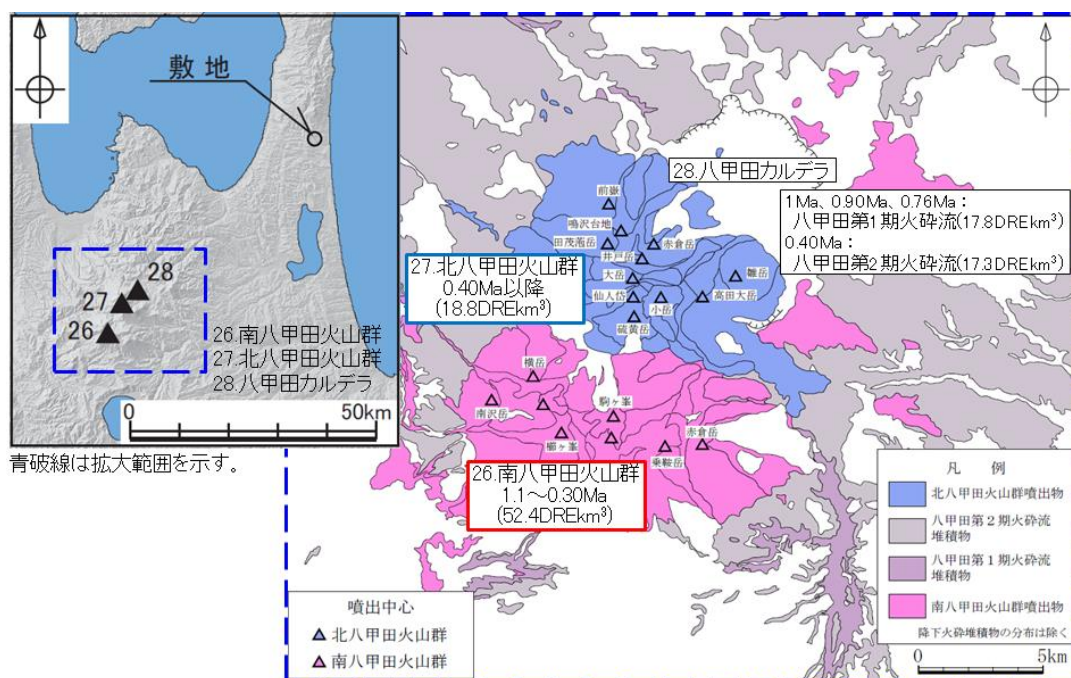


添3ト-第5図 毛馬内火砕流堆積物の分布



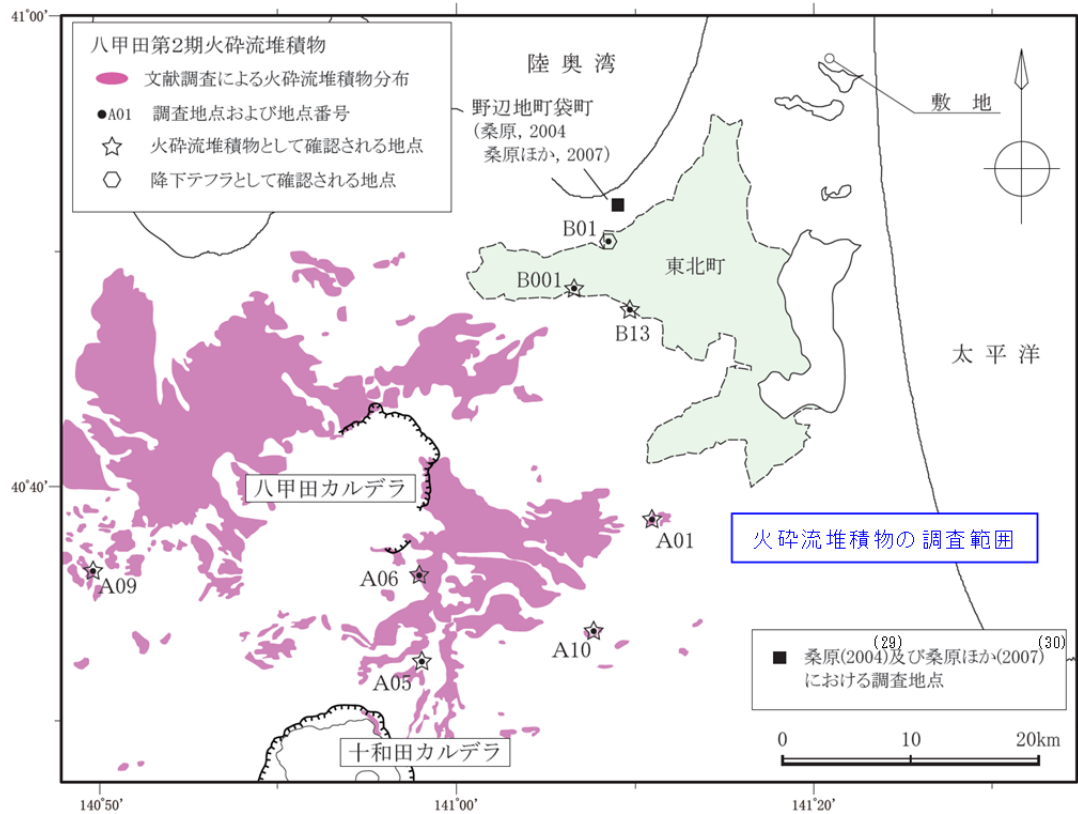
年代は中野ほか編 (2013)<sup>(1)</sup>、噴出量は Umeda et al. (2013)<sup>(26)</sup> 及び工藤ほか (2004)<sup>(27)</sup> に基づく。

添3ト-第6図 八甲田山の階段ダイアグラム



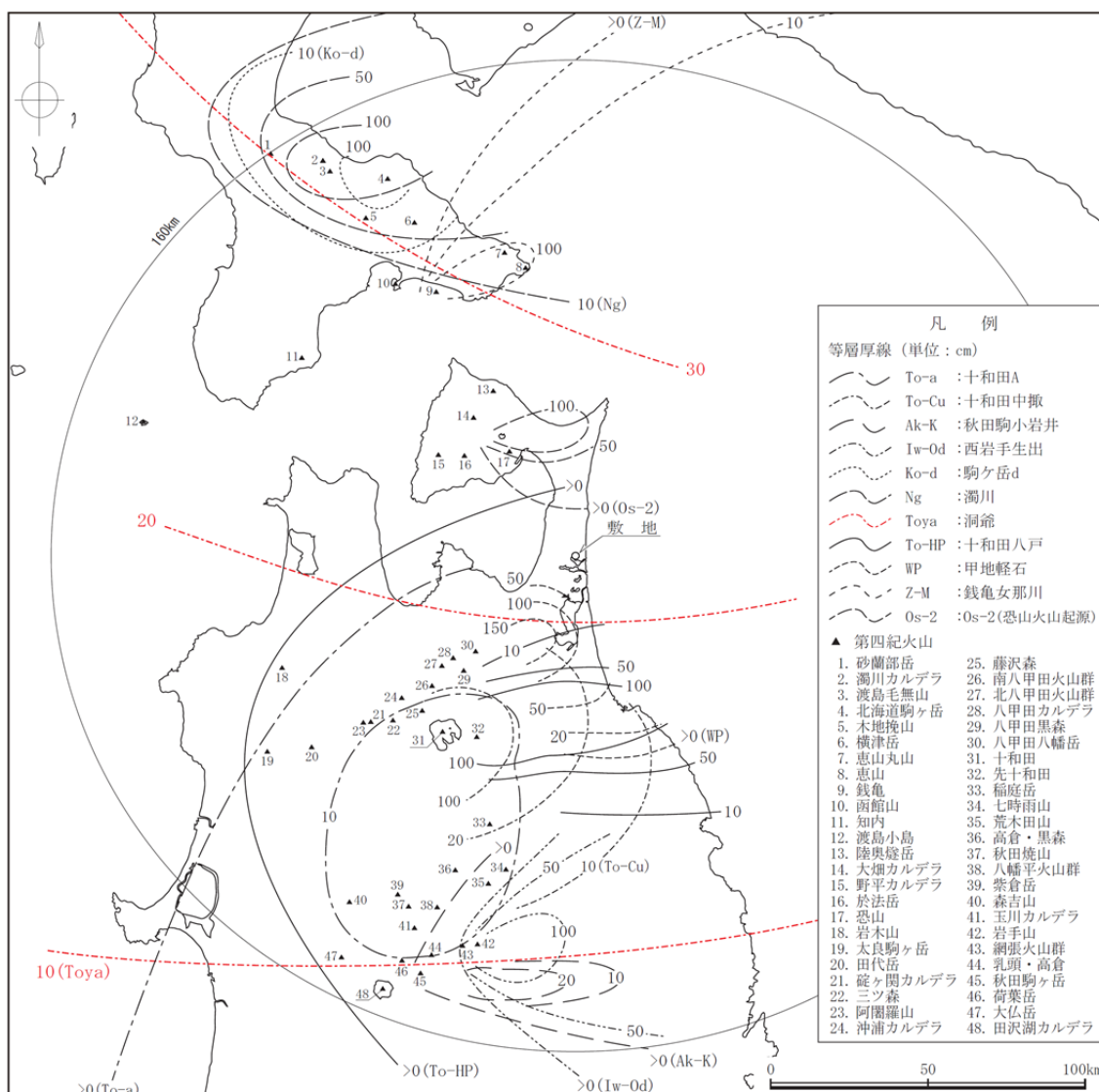
村岡、高倉(1988)<sup>(28)</sup>、宝田、村岡(2004)<sup>(9)</sup>より当社が作成、年代は中野ほか編(2013)<sup>(1)</sup>及び工藤ほか(2011)<sup>(13)</sup>、噴出量はUmeda et al. (2013)<sup>(26)</sup>及び工藤ほか(2004)<sup>(27)</sup>に基づく。

添3ト-第7図 八甲田山の各火山とその噴出物の分布



村岡、高倉(1988)<sup>(28)</sup>、村岡ほか(1991)<sup>(14)</sup>、大沢ほか(1993)<sup>(15)</sup>、桑原(2004)<sup>(29)</sup>、桑原ほか(2007)<sup>(30)</sup>に基づき当社が作成。

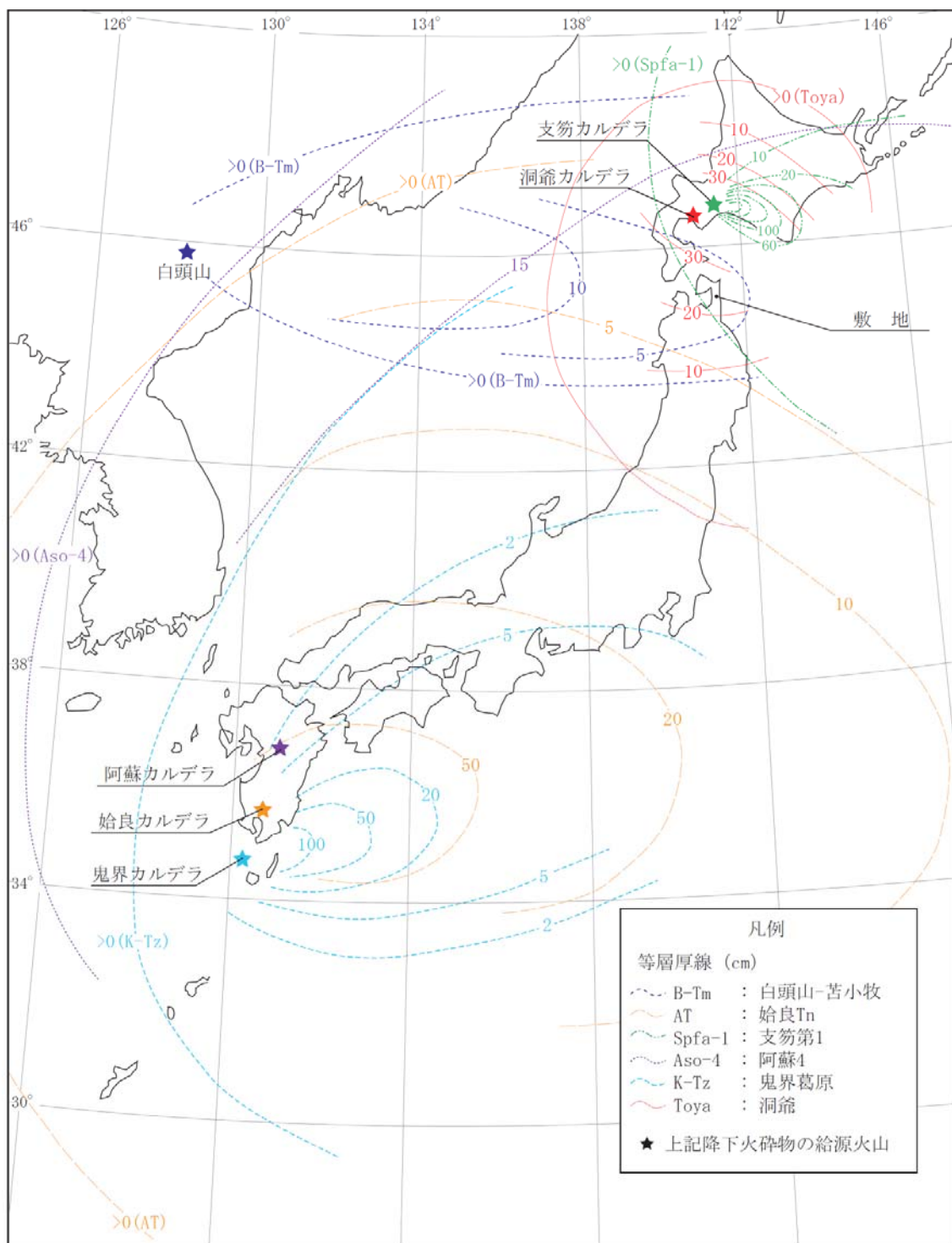
添 3 ト-第 8 図 八甲田第 2 期火砕流堆積物の分布



第四紀火山の位置及び名称は、中野ほか編(2013)<sup>(1)</sup>に基づき作成。  
 降下火砕物の名称及び等層厚線は、町田・新井(2011)<sup>(18)</sup>、工藤ほか(2004)<sup>(27)</sup>、リサイクル燃料貯蔵株式会社(2007)<sup>(33)</sup>に基づき作成。

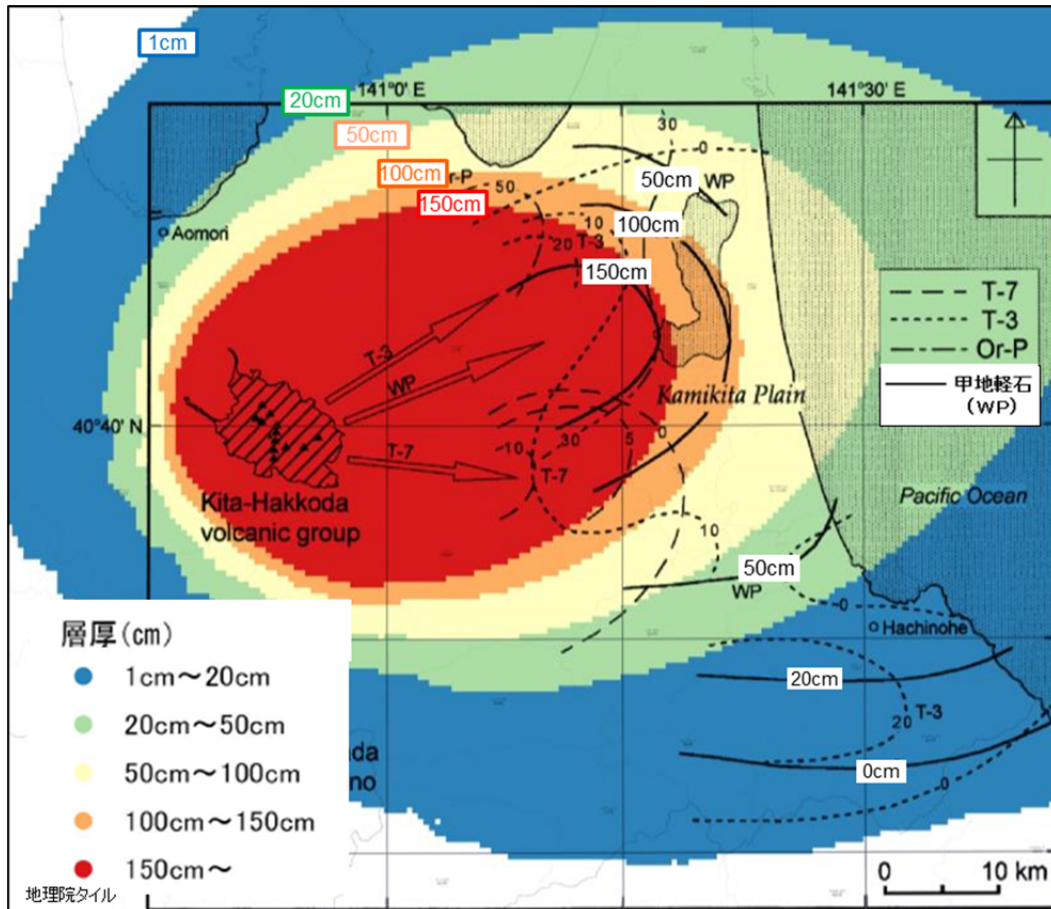
添 3 ト-第 9 図 地理的領域内の第四紀火山起源の主な降下火砕物の分布  
 (事業所敷地及び事業所敷地近傍に分布する主な降下火砕物については  
 地理的領域外のもあわせて示す)





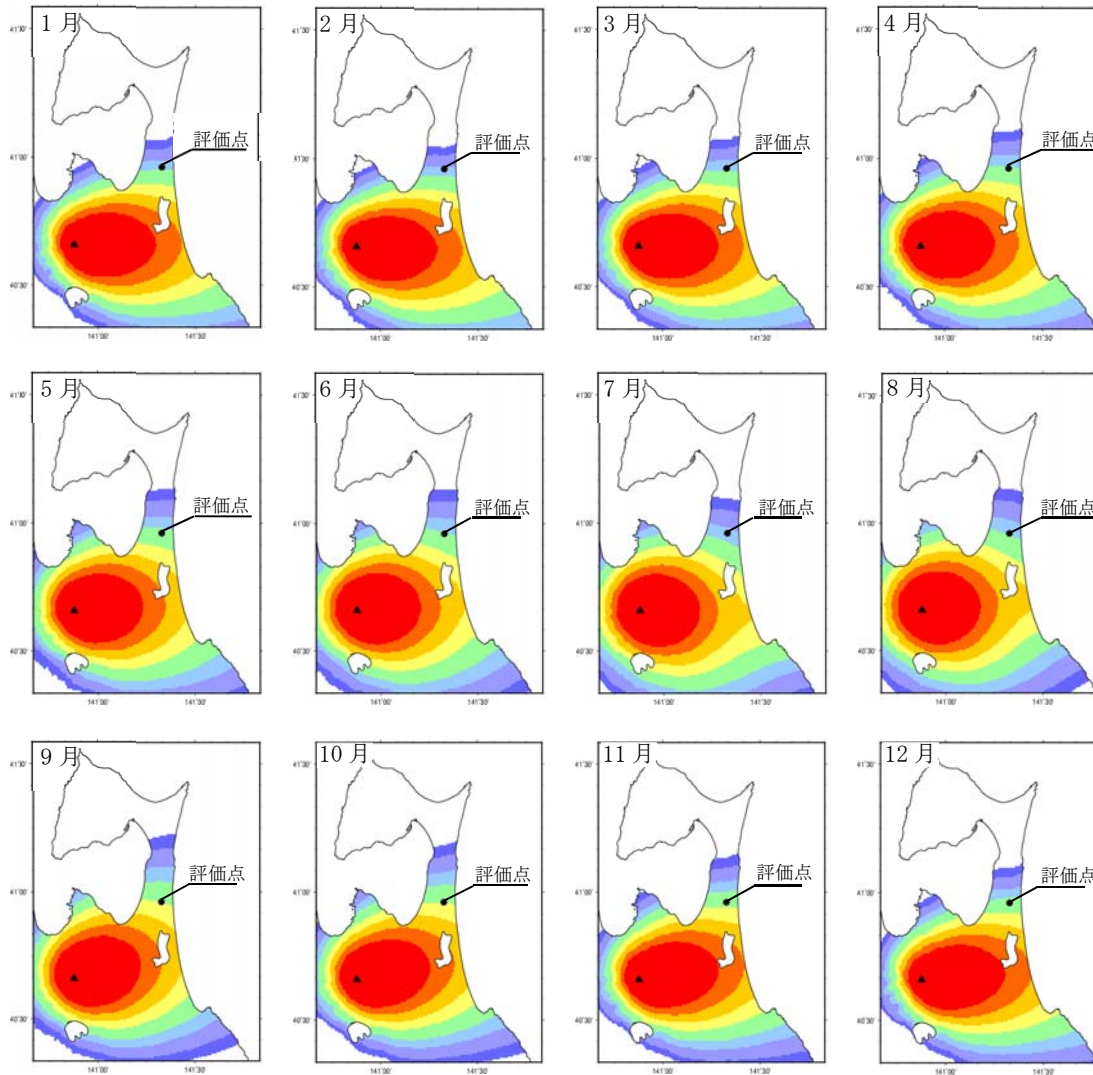
町田・新井(2011)<sup>(18)</sup>に基づき作成。

添 3 ト-第 10 図 地理的領域外の第四紀火山起源の主な降下火砕物の分布  
(事業所敷地及び事業所敷地近傍に分布する主な降下火砕物)



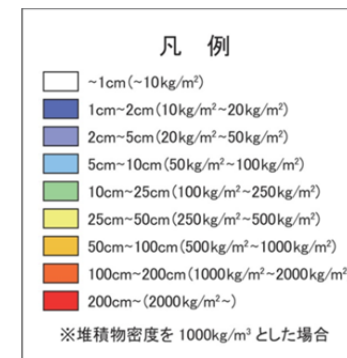
工藤ほか(2004) <sup>(27)</sup>に当社の解析結果を重ね合わせて作成。

添3ト-第11図 甲地軽石(WP)の再現性解析結果

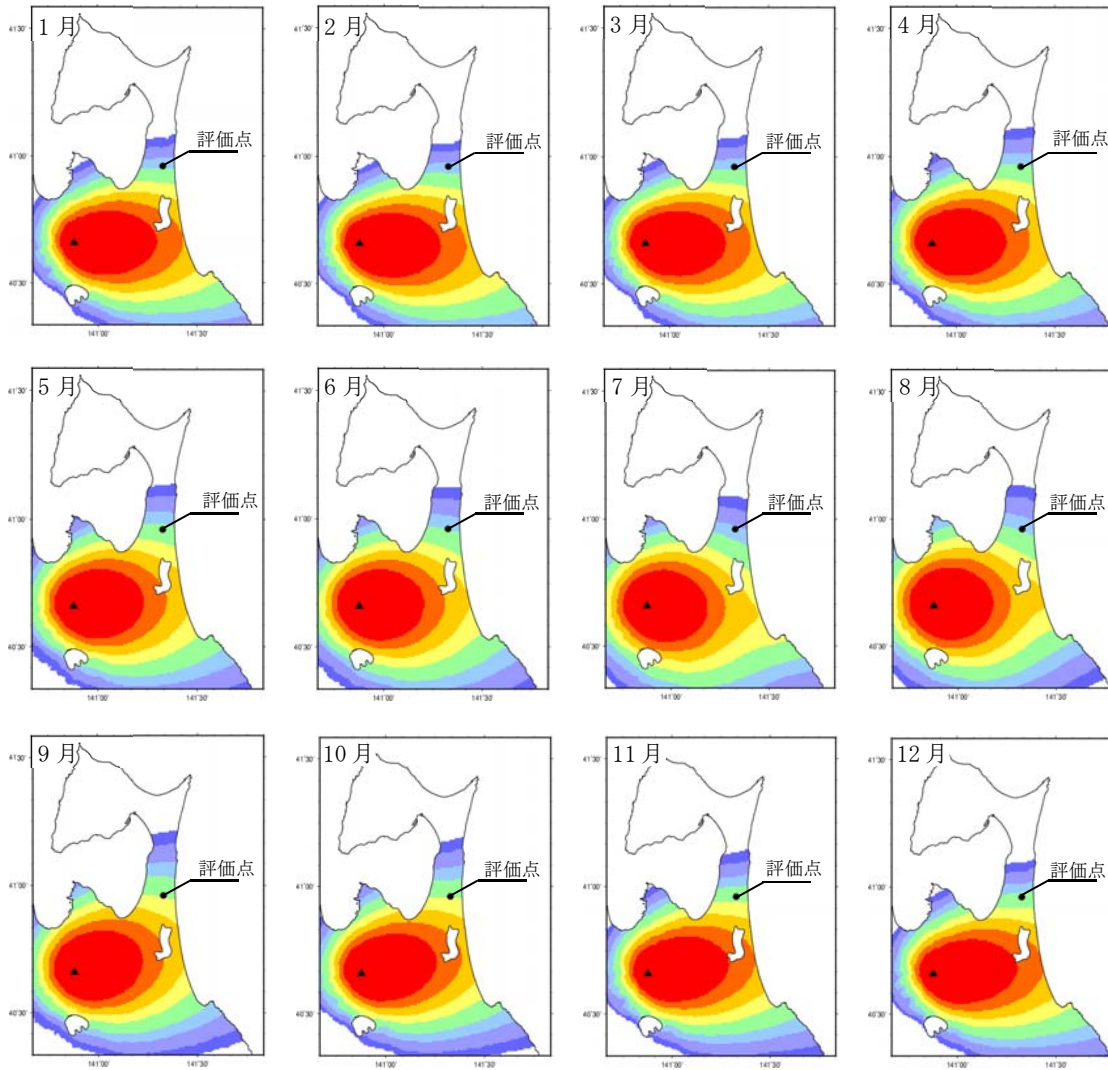


	質量 (kg/m <sup>2</sup> )	層厚 (cm)
1月	$8.4 \times 10^1$	$8.4 \times 10^0$
2月	$6.1 \times 10^1$	$6.1 \times 10^0$
3月	$8.8 \times 10^1$	$8.8 \times 10^0$
4月	$1.1 \times 10^2$	$1.1 \times 10^1$
5月	$1.3 \times 10^2$	$1.3 \times 10^1$
6月	$1.1 \times 10^2$	$1.1 \times 10^1$
7月	$6.7 \times 10^1$	$6.7 \times 10^0$
8月	$9.3 \times 10^1$	$9.3 \times 10^0$
9月	$2.5 \times 10^2$	$2.5 \times 10^1$
10月	$2.5 \times 10^2$	$2.5 \times 10^1$
11月	$1.9 \times 10^2$	$1.9 \times 10^1$
12月	$1.3 \times 10^2$	$1.3 \times 10^1$

月別平年値(9時)の風の際の評価点での層厚(1981年~2010年)

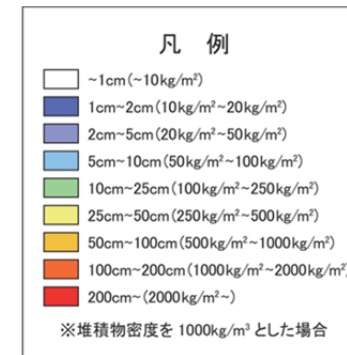


添3 ト-第12図 降下火砕物シミュレーションの解析結果(1/2)(月別平年値の風:9時)

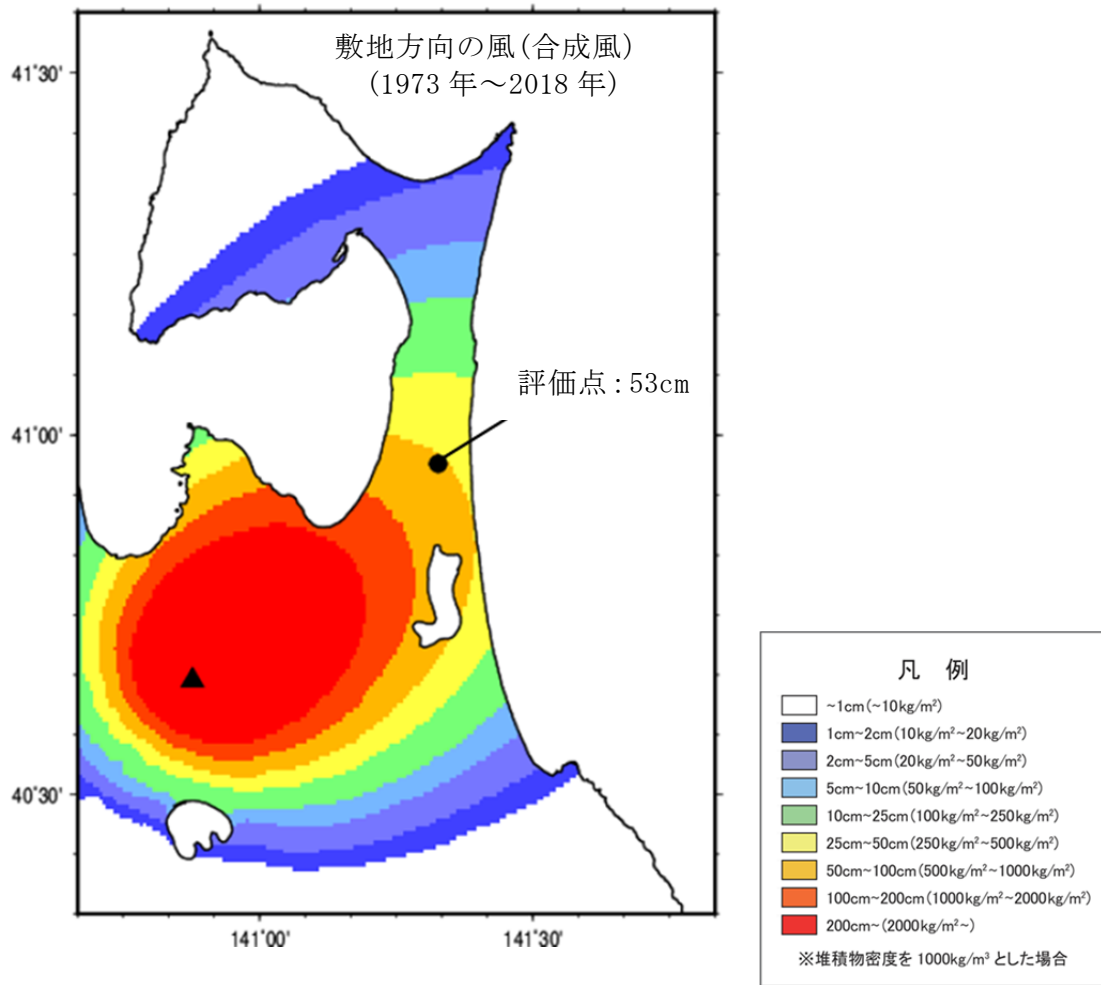


	質量 (kg/m <sup>2</sup> )	層厚 (cm)
1月	$8.9 \times 10^1$	$8.9 \times 10^0$
2月	$6.5 \times 10^1$	$6.5 \times 10^0$
3月	$8.6 \times 10^1$	$8.6 \times 10^0$
4月	$1.1 \times 10^2$	$1.1 \times 10^1$
5月	$1.3 \times 10^2$	$1.3 \times 10^1$
6月	$9.9 \times 10^1$	$9.9 \times 10^0$
7月	$6.0 \times 10^1$	$6.0 \times 10^0$
8月	$9.0 \times 10^1$	$9.0 \times 10^0$
9月	$2.3 \times 10^2$	$2.3 \times 10^1$
10月	$2.4 \times 10^2$	$2.4 \times 10^1$
11月	$1.8 \times 10^2$	$1.8 \times 10^1$
12月	$1.3 \times 10^2$	$1.3 \times 10^1$

月別平年値(21時)の風の際の評価点での層厚(1981年~2010年)



添3ト-第12図 降下火砕物シミュレーションの解析結果(2/2)(月別平年値の風:21時)



添3ト-第13図 降下火砕物シミュレーションの解析結果(風向き之不確かさを考慮)